

第 31 回レーザセンシングシンポジウム開催趣意書

実行委員長 電力中央研究所 藤井 隆

レーザセンシングシンポジウムは、1972 年に開催された第 1 回レーザレーダシンポジウムから始まり、第 12 回から現在の名称に変更され、今日に至っています。本シンポジウムは国内最大のレーザレーダ（ライダー）に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

レーザレーダ研究会は、第 1 回開催の際、日本のライダー研究の先駆者でおられた故・稲場文男先生を会長として組織され、シンポジウムの開催、レーザセンシング技術の向上と普及に関する活動を開始致しました。レーザレーダ研究会主催のレーザセンシングシンポジウムは今年が 31 回目となります。これまでと同様に、ライダー、レーザ技術、レーザ分光、レーザ計測など、幅広いレーザセンシング技術の開発と応用に関する学術成果の発表、今後の研究に関する提案や展望など、幅広い話題を期待しています。因みに、前回は平成 24 年 9 月 6 日～7 日に香川県小豆島にて開催され、92 名が参加し、54 件の発表がなされました。本年は、平成 21 年の那須での開催以来、4 年ぶりに関東地区での開催となります。関東の有数の観光地である箱根での開催にあたり、多数のご参加を期待しています。

また、レーザレーダ研究会は、国際的な活動として、日本で開催された、第 6 回（1974 年、仙台）、第 17 回（1994 年、仙台）、第 23 回（2006 年、奈良）の国際レーザレーダ会議（ILRC）において、現地実行委員会の主力構成員として大いに貢献してまいりました。

近年は、安全・安心な社会への関心が高まっており、東日本大震災以降、防災・減災への取り組みに対する社会的要求が以前にも増して強まっております。また、地球温暖化に代表されるグローバルな地球環境問題、微小粒子状物質（PM2.5）等の大気汚染問題、集中豪雨等の局地的な気象問題が注目されています。レーザセンシングは環境計測、気象観測、非破壊検査、監視システムなど、幅広い分野への応用が可能であり、上記のような社会ニーズに応え、問題解決を図るためには、研究者や技術者の一層の努力が必要とされています。本シンポジウムは、レーザセンシングの装置開発、計装技術、計測技術、データ解析・運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、気象・環境関係の研究者が集い、情報交換を行い、研究分野や技術の融合を図る場として、重要な役割を担っています。

今回のシンポジウムでも、レーザセンシングに関する幅広い分野の話題を取り上げてゆく予定です。関係各位のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第 31 回レーザセンシングシンポジウム	
主催	レーザレーダ研究会
第 31 回シンポジウム実行委員会	実行委員長 一般財団法人 電力中央研究所 藤井隆 実行委員 同上 福地哲生, 江藤修三, 田村英寿, 木原直人
開催日程・会場	日程：平成 25 年 9 月 12 日（木）～13 日（金） 会場：箱根湯本温泉 ホテルおかだ 〒250-0312 神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋 191 TEL: 0460-85-6000 FAX: 0460-85-5774
特別講演	石井 勝 東京大学名誉教授 「上向き雷放電」（仮）
発表形式	口頭発表 発表時間 10 分、質疑応答 5 分（予定） ポスター発表 発表時間約 90 分 （ポスター：横 72cm×縦 101cm）
協賛・後援団体 （一部予定を含む）	応用物理学会、環境科学会、計測自動制御学会、大気環境学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、電気学会、電子情報通信学会、日本気象学会、日本光学会（応用物理学会）、日本天文学会、日本分光学会、日本リモートセンシング学会、レーザー学会、日本測地学会
参加費・宿泊費	参加費 ：一般 12,000 円, 学生 2,000 円 宿泊費 ：12,000 円（懇親会費込） ＊参加費には講演要旨集代が含まれています。 ＊シンポジウムに参加しない同伴者の宿泊も受け付けます（参加費不要）
受付期間	論文申し込み受け付け 平成 25 年 4 月 18 日～7 月 26 日 参加申し込み受付期間 平成 25 年 4 月 18 日～8 月 23 日 原稿提出受付期間 平成 25 年 4 月 18 日～8 月 9 日
ホームページ	http://www-lidar.nies.go.jp/lss31/